

試験を受けることを表すのに多くの言語で 「与える」という動詞を用いるのはなぜか

平 塚 徹

要 旨

英語では、「試験を受ける」ことを *to take an examination* と言い、「試験をする」ことを *to give an examination* と言う。しかし、多くの言語において、「試験を受ける」ことを表すのに、「与える」という動詞が用いられる（イタリア語 *dare un esame*, アルゼンチンとウルグアイのスペイン語 *dar un examen*, 現代ギリシア語 *dinō exetáseis*, ベルシア語 *emtehān dādan*, ヒンディー語 { *imtahān / parīkṣā* } *denā*)。更に、これらの言語の多くにおいて、「試験をする」ことを表すのに、「取る」という動詞が用いられる（アルゼンチンのスペイン語 *tomar un examen*, ベルシア語 *emtehān gereftan*, ヒンディー語 { *imtahān / parīkṣā* } *lenā*)。

これらの表現は、試験において、受験者は試験者に解答を与えていること、あるいは逆に言うと、試験者は受験者から解答を得ているということに動機付けられている。しかし、文字通りには「試験」を意味する目的語名詞が、問題の表現においてはメトニミーにより「解答」を指しているというわけではない。むしろ動詞の方が、「試験」を意味する名詞を目的語に取ると、意味を変えているのである。「与える」という動詞は、「解答を与えることにより、試験を受ける」ことを表し、「取る」という動詞は、「解答を得ることにより、試験をする」ことを表しているのである。

キーワード：試験、「与える」という動詞、「取る」という動詞、メトニミー、active zone

1. はじめに

英語では、「試験を受ける」ことを *take an examination* と言い、「試験をする」ことを *give an examination* と言う。つまり、「試験を受ける」ことを表すのに「取る」という動詞を用い、「試験をする」ことを表すのに「与える」という動詞を用いる。

しかし、英語とは逆に、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いる言語が数多く存在する。そして、その中には、やはり英語とは逆に、「試験をする」ことを表すのに「取る」という動詞を用いる言語も存在する。

例えば、イタリア語では、「試験を受ける」ことを以下のように言う。

- (1) イタリア語（『伊和中辞典』, s.v. *esame*）

dare	un	esame
与える	不定冠詞	試験

試験を受ける

同様の表現はルーマニア語でも見られる。

(2) ルーマニア語 (直野, s.v. *da*)

a	da	un	examen
不定詞標識	与える	不定冠詞	試験
試験を受ける			

フランス語においても, Moufflet は, (3) の表現を挙げて, (4) のように説明している。

(3) フランス語 (Moufflet, p. 153)

donner	l'examen
与える	定冠詞 - 試験

(4) Expression employée couramment par le personnel subalterne de la Marine pour *passer l'examen*.

「試験を受ける」ことを表すために海軍の下級の者たちによってよく使われる表現

アルゼンチンやウルグアイのスペイン語でも同様の表現が見られる (Haensch y Werner, s.v. *dar*; Köhl de Mones, s.v. *dar*)。

(5) アルゼンチンのスペイン語 (Haensch y Werner, s.v. *dar*)

una	persona	da	un	examen
不定冠詞	人	与える	不定冠詞	試験
人が試験を受ける				

また, アルゼンチンでは, 「試験をする」ことを表すのに, 「取る」という動詞を用いる。

(6) アルゼンチンのスペイン語 (Haensch y Werner, s.v. *tomar*)

un	profesor	toma	un	examen
不定冠詞	教師	取る	不定冠詞	試験
教師が試験をする				

英語と対照すると, take an examination と give an examination という二つの表現の動詞が入れ

替わっているのである²⁾。

ロマンス諸語以外でも同様の表現が見られる。インド・ヨーロッパ語族では、現代ギリシア語・ペルシア語・ウルドゥー語・ヒンディー語・ネパール語において、「試験を受ける」ことを表すのに、「与える」という動詞を用いる^{3) 4)}。

- (7) 現代ギリシア語 (『現代ギリシア語辞典』, s.vv. *dínō*, *exétasi*)

dínō *exetáseis*

私は与える 試験

私は試験を受ける

- (8) ペルシア語 (黒柳, 2002, s.v. *emtehān*)

emtehān *dādan*

試験 与える

試験を受ける

- (9) ウルドゥー語 (加賀谷, s.v. *imtēhān*)

imtēhān *de-nā*

試験 与える

試験を受ける

- (10) ヒンディー語 (*The Oxford Hindi-English Dictionary*, s.vv. *imtahān*, *parīkṣā*)

{ *imtahān* / *parīkṣā* } *denā*

試験 与える

試験を受ける

- (11) ネパール語 (三枝, s.vv. *parīkṣā*, *jāc*)

{ *parīkṣā* / *jāc* } *dīnu*

試験 与える

試験を受ける

このうち、ギリシア語以外においては、アルゼンチンのスペイン語と同様に、「試験をする」ことを表すのに、「取る」という動詞を用いる⁵⁾。

- (12) ペルシア語 (黒柳, 2010, s.v. 「試験」)

emtehān *gereftan*

試験 取る

試験をする

- (13) ウルドゥー語 (加賀谷, s.v. *imtēhān*)

imtēhān le-nā
 試験 取る
 試験をする

- (14) ヒンディー語 (*The Oxford Hindi-English Dictionary*, s.vv. *imtahān, parīkṣā*)

{ imtahān / parīkṣā } lenā
 試験 取る
 試験をする

- (15) ネパール語 (三枝, s.vv. *parīkṣā, jāc*)

{ parīkṣā / jāc } linu
 試験 取る
 試験をする

インド・ヨーロッパ語族以外では、ウズベク語とモンゴル語の例を挙げることができる。

- (16) ウズベク語 (Waterson, s.v. *imtihon*)

imtihon bermoq
 試験 与える
 試験を受ける

- (17) モンゴル語 (橋本・プレブジャブ, s.v. 「試験」)

šalgalt ögökh
 試験 与える
 試験を受ける

これらの言語でも、「試験をする」ことを表すのに、「取る」という動詞を用いる⁶⁾。

- (18) ウズベク語 (Waterson, s.v. *imtihon*)

imtihon olmoq
 試験 取る
 試験をする

- (19) モンゴル語 (橋本・プレブジャブ, s.v. 「試験」)

šalgalt awakh
 試験 取る
 試験をする

以上、「試験を受ける」ことを表すのに、「与える」という動詞を用いる言語を見てきたが、「与える」の類義語を用いる言語もある。

ポルトガル語では、「試験を受ける」ことを次のように言う。

(20) ポルトガル語 (『現代ポルトガル語辞典 改訂版』, s.v. *exame*)

prestar	um	exame
与える	不定冠詞	試験
試験を受ける		

ポルトガル語で「与える」という意味を表す一般的な動詞は *dar* であるが、ここで用いられている動詞 *prestar* は、「与える」という訳語を当てられているが、抽象名詞と連語をなすなど、用法が限られた動詞である⁷⁾。

ロシア語では、「試験を受ける」ことを次のように言う⁸⁾。

(21) ロシア語 (『研究社露和辞典』, s.v. *èkzamen*)

sdavat'	èkzamen
渡す	試験
試験を受ける	

ここでは、「与える」という動詞 *davat'* に分離を表す接頭辞 *s-* を付けた動詞 *sdavat'* が用いられているが、同じ語構成の動詞が、ロシア語と同じスラブ語のポーランド語においても、「試験を受ける」ことを表すのに用いられる⁹⁾。

(22) ポーランド語 (『白水社ポーランド語辞典』, s.v. *egzamin*)

zdawać	egzamin
渡す	試験
試験を受ける	

(16) で、ウズベク語では、「試験を受ける」ことを表すのに、「与える」という動詞 *bermoq* を用いることを見たが、それ以外にも次のような表現もある。

(23) ウズベク語 (小松, s.v. *imtihon*)

imtihon	topshirmoq
試験	渡す

試験を受ける

他方、ロシア語では、「試験をする」ことを表すのに、以下のような表現もある。

(24) ロシア語 (『岩波ロシア語辞典』, s.v. *prinjat'*)

<i>prinjat'</i>	<i>èkzamen</i>
受け取る	試験
試験をする	

これらの表現は、「与える」という動詞や「取る」という動詞が用いられる場合に準ずるものとして扱ってよいだろう。

以上、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いたり、「試験をする」ことを表すのに「取る」という動詞を用いる言語の例を見てきた¹⁰⁾。

2. 複数の言語において独立に生じた表現と考えるべきである

「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いる言語が多く存在するが、前節で見た例はほとんどインド・ヨーロッパ語族のもので、使われている動詞は、インド・ヨーロッパ祖語で「与える」ことを表す語根 *dō- に由来するものである。しかし、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いることが、インド・ヨーロッパ祖語から受け継がれたものとは考えられない。そもそも、試験やそれについての表現がインド・ヨーロッパ祖語の時代から存在していたと想定することは困難である。やはり、社会の発展に伴って試験というものが出現し、それについての表現も出来たと考えるべきであろう。

試験が文化的・社会的所産であることを踏まえると、「試験を受ける」ことを表す表現が借用されながら伝播したために、多くの言語で同様の表現が見られるのではないかと考えることができる。

例えば、前節で見た通り、ペルシア語・ウルドゥー語・ヒンディー語・ウズベク語においては、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いるが、これらの言語で試験を表す語は、元々、アラビア語の *imtiḥān* に由来する。これが借用されて、上述の言語に広がっていったと考えると、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いた言い回しも、借用によって広がったと考えるのが妥当である¹¹⁾。

同じことは、ヒンディー語とネパール語においても成り立つ。ヒンディー語には、試験を表すのに、アラビア語起源の *imtahān* の他に、サンスクリット起源の *parīkṣā* という語もあるが、この語はネパール語に借用されている。よって、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」と

いう動詞を用いる表現も借用されたと考えられる。

ロマンス語では、ルーマニア語が「試験を受ける」ことを表すのに、「与える」という動詞を用いるが、同じ表現をするイタリア語の影響である可能性は十分にある。アルゼンチンやウルグアイのスペイン語についても、ラプラタ川流域はイタリア語の影響の強い地域なので、やはり、イタリア語起源として説明できるかもしれない。

しかしながら、そもそも、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いる表現が広範囲に見られることを見ると、その全てを同一の起源からの伝播として説明するのは無理があるように思われる。幾つかは独立に生じたものであると考える方が自然である。

また、「試験をする」ことを表すのに「取る」という動詞を用いることも、イタリア語では見られないのに、アルゼンチンのスペイン語では見られる。これはイタリア語からアルゼンチンのスペイン語への伝播という仮説にそぐわない。

よって、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いたり、「試験をする」ことを表すのに「取る」という動詞を用いることには、複数の言語で独立に生じうる程度の十分な動機付けがあると考えることができる。

3. 動詞が単に「する」という意味になったのではない

「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞が用いられる言語が数多く存在しているが、「与える」という語義から「試験を受ける」という意味が生じることは、にわかには理解しがたい。例えば、Moufflet がフランス海軍の下級の者たちによって用いられるとして挙げた (3) (25 に再掲) について、Dupré (s.v. *donner l'examen*) は (26) のように述べている。

(25) フランス語 (Moufflet, p. 153)

donner	l'examen
与える	定冠詞 - 試験

(26) Une telle expression est évidemment insoutenable, car elle ne correspond à aucun des sens fondamentaux du verbe *donner*, ni à l'usage scolaire et universitaire.

このような表現は明らかに容認できない。なぜなら、動詞 *donner* (与える) の基本的意味のいずれにも、学校教育や大学での用法にも対応していないからだ。

事実、「試験を受ける」ということは、試験というものを誰かに与えることではない。何かを「与える」ということは、それを持っている人が、別の人がそれを持つようにすることだが、そもそも、試験を持っているということも、持っている人が変わるということも、意味をなさない。つまり、「試験を受ける」ことを表す表現において、「与える」という動詞は、その本来の

意味で使われているのではないと考えられる。

3.1. 動詞が「する」という意味になっているのか

そこで、そのような表現においては、動詞が単に「する」という意味になっているのではないかと思われるかもしれない。事実、「試験を受ける」ことを表すのに、「する」という意味の動詞を用いる場合が見られる。以下は、ポルトガル語・カタロニア語・ドイツ語・オランダ語の例である¹²⁾。

(27) ポルトガル語 (『現代ポルトガル語辞典』, s.v. *exame*)

fazer	um	exame
する	不定冠詞	試験
試験を受ける		

(28) カタロニア語 (*Diccionari anglès-català català-anglès*, s.v. *sit*)

fer	un	examen
する	不定冠詞	試験
試験を受ける		

(29) ドイツ語 (*Duden*, s.vv. *Examen, Prüfung*)

{ ein	Examen	/	eine	Prüfung }	machen
不定冠詞	試験		不定冠詞	試験	する
試験を受ける					

(30) オランダ語 (*Osselton and Hempelman*, s.v. *examen*)

examen	doen
試験	する
試験を受ける	

英語においても、動詞 do を用いる言い方がある。

(31) 英語

do an examination

よって、本来は「与える」ことを意味する動詞であっても、「する」という意味になっているとすれば、「試験を受ける」ことを表すのに用いられることが説明できる。

同じことは、「試験をする」ことを表すのに、「取る」という意味の動詞が用いられる場合にも当てはまる。事実、「試験をする」ことを表す場合でも、「する」という動詞を用いる言語が

ある。例えば、次は、イタリア語の例である。

(32) イタリア語 (『伊和中辞典』, s.v. *esame*)

fare	un	esame
する	不定冠詞	試験
試験をする		

ペルシア語においても同様である¹³⁾。

(33) ペルシア語 (黒柳, 2002, s.v. *emtehān*)

emtehān	kardan
試験	する
試験をする	

日本語も、同じと考えて良いだろう。

(34) 日本語

試験をする (行う)

よって、「取る」という動詞が、単に「する」という意味になっていけば、「試験をする」ことを表すのに用いられることが説明できる。

3.2. 「する」には「与える」や「取る」のような方向性が無い

しかし、「与える」ことや「取る」ことを表す動詞が「する」という意味になっているために、「試験を受ける」ことや「試験をする」ことを表すのに用いられるという説明には問題がある。まず、この説明では、これらの動詞が試験について用いられるのは、「与える」や「取る」という意味とは全く関係の無いことになってしまう。それでは、なぜ、「与える」ことや「取る」ことを表す動詞がこれほど用いられているかが説明されない。また、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」を用い、「試験をする」ことを表すのに「取る」を用いる言語について考えた場合、もし、どちらの動詞も「する」という意味になっているとすると、両者の表現の意味の違いがどこから生ずるのかが説明されない。

この点で、アルゼンチンのスペイン語とスペイン本国のスペイン語の比較が興味深い。第1節で述べたとおり、アルゼンチンのスペイン語では、「試験を受ける」ことを表すのに *dar* (与える) という動詞を用い、「試験をする」ことを表すのに *tomar* (取る) という動詞を用いる。

ところが, Haensch y Wernerによると, スペイン本国のスペイン語においては, どちらの場合にも, *hacer* (する) という動詞が用いられる。

(35) スペイン語

<i>hacer</i>	<i>un</i>	<i>examen</i>
する	不定冠詞	試験
試験を { 受ける・する }		

もし, *dar* (与える) も *tomar* (取る) も, 単に「する」という意味になっているとすると, 前者が「試験を受ける」ことを表すのに用いられ, 後者が「試験をする」ことを表すのに用いられるという使い分けがうまく説明されない。

類似した問題は, イタリア語にも見られる。(32)で動詞 *fare* (する) は「試験をする」ことを表すのに用いられることを見たが, それより頻度は低いものの, 「試験を受ける」ことを表すにも用いられる (Migliorini, s.v. *esame*; *Vocabolario della lingua italiana*, s.v. *esame*)。これに対して, 動詞 *dare* (与える) を用いた表現 (1) は, 「試験を受ける」ことを表し, 「試験をする」ことを表さない。(1)において, *dare* の意味が単に「する」という意味になっていると説明すると, *dare* と *fare* のこのような相違をうまく捉えることができない。

「する」という動詞を用いた場合, 「試験を受ける」と「試験をする」の両方を意味しうるとは他の言語でも見られる。例えば, (27)で, ポルトガル語では, 動詞 *fazer* (する) を用いると, 「試験を受ける」という意味になることを見たが, 実は, これも, 「試験をする」という意味でも用いられる (『現代ポルトガル語辞典』, s.v. *exame*)¹⁴⁾。また, (29)では, ドイツ語において, やはり動詞 *machen* (する) を用いると, 「試験を受ける」という意味になることを見たが, これも「試験をする」という意味になる場合がある (『新現代独和辞典』, s.v. *Prüfung*)¹⁵⁾。このように, 「する」という動詞は, 「試験を受ける」と「試験をする」という両方の意味で用いられるのだが, 「与える」という動詞や「取る」という動詞の場合にはそうではない。このことは, 「与える」という動詞や「取る」という動詞が「する」という意味になっているとすると, 説明できないのである。

3.3. 受験者が起点として, 試験者が着点として標示されることがある

「与える」という動詞や「取る」という動詞が「する」という意味になっているという考え方には, 他にも問題がある。例えば, 次のペルシア語の文を見られたい。

(36) ペルシア語 (黒柳, 2010, s.v. 「試験」)

mo'allem	az	dānesh-āmūz	emtehān	gereft
先生	から	生徒	試験	取った

先生が生徒に試験をした

ここでは、「試験をする」ことを表すのに「取る」という動詞が用いられているが、試験を受ける者（以下、「受験者」）である「生徒」には前置詞 *az*（～から）が付いている。つまり、受験者が起点として標示されているのである。このことは、動詞の「取る」という本来の意味を考慮しないと説明できない。「取る」という動詞は、目的語の指示対象の移動の起点を表す項を取って、「～から～を取る」という意味で使われるが、これに対して、この動詞が単に「する」という意味になっているとすると、起点を表す項の出現を説明することができないのである¹⁶⁾。

ウズベク語においても、同じことが見られる。

(37) ウズベク語 (Waterson, s.v. *imtihon*)

student-dan	imtihon	olmoq
学生-から	試験	取る

学生に試験をする

ここでは、「学生」を表す名詞に起点を表す接尾辞 *-dan* が付いている。つまり、ペルシア語の場合と同様に受験者が起点として標示されているのである。また、ヒンディー語でも、(14) で見た *parīkṣā lenā*（試験をする）は、受験者を後置詞 *se*（～から）で標示する（*The Oxford Hindi-English Dictionary*, s.v. *parīkṣā*）。これらも、動詞が単に「する」という意味になっているとすると説明されない¹⁷⁾。

類似したことは、ロシア語の「試験を受ける」という表現でも見られる。

(38) ロシア語 (『研究社露和辞典』, s.v. *èkzamen*)

sdavat'	èkzamen	Professoru	Nikitinu
渡す	試験	教授	ニキーチン

ニキーチン教授の試験を受ける

ここでは、試験をする者（以下、「試験者」）が与格で標示されている。このことも、動詞 *sdavat'* が単に「する」という意味になっているとすると説明されない。しかし、この動詞は、本来の用法においては、直接目的語の指示対象の移動の着点と与格で標示する。(38)において試験者

が与格で標示されていることは、このことを踏まえて説明されるべきである。

このように、「与える」ことや「取る」ことを表す動詞が、「試験を受ける」ことや「試験をする」ことを表すのに用いられることを、単に「する」という意味になっているからと説明することには問題がある。むしろ、「与える」や「取る」という意味自体の中に、このような用法の動機付けがあると考えるのが自然である。

4. 解答が active zone になっている

既に述べた通り、「試験を受ける」ということは、試験というものを誰かに与えることではない。また、「試験をする」ということも、試験というものを取ることではない。しかし、前節で見た通り、「与える」や「取る」という意味自体に、問題の表現の動機付けを見いだすべきである。

「試験」という事象の内部構造を考えると、受験者は試験者に答案を提出している。つまり、受験者は試験者に答案を与えていると捉えられる。もちろん、これは典型的な筆記試験の場合であるが、口頭試験であっても、受験者は試験者に解答を与えていると捉えられる。また、試験者は受験者に答案を提出させたり、解答を言わせたりしている。これは、試験者が受験者から答案や解答を取っていると捉えることのできる状況である。これが、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いたり、「試験をする」ことを表すのに「取る」という動詞を用いる動機付けになっているのではないだろうか。

このように言うと、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いたり、「試験をする」ことを表すのに「取る」という動詞を用いる場合、「試験」という名詞はメトニミーにより「答案」や「解答」を指しているということかと思われるかも知れない。しかし、そのように考えると、「与える」という動詞を用いた表現は、答案を提出することや解答を言うことを表し、「取る」という動詞を用いた表現は、答案を提出させることや解答を言わせることを表すことになる。しかし、それらは、「試験を受ける」ということや「試験をする」ということと同じことではなく、それらの一部分でしかない。

むしろ、「試験を受ける」ことや「試験をする」ことを表すのに、目的語は「試験」のまま、答案や解答に対する行為に着目して、「与える」という動詞や「取る」という動詞を用いたのではないだろうか。この場合、目的語の「試験」は、メトニミーにより「答案」や「解答」を指示するのではなく、飽くまでも「試験」を指示する。変化しているのは、むしろ動詞の方の意味である。つまり、「与える」という動詞が「試験」を目的語として取ると、「答案」や「解答」を「与える」ことにより、「試験を受ける」ことを意味し、「取る」という動詞が「試験」を目的語として取ると、「答案」や「解答」を「取る」ことにより、「試験をする」ことを意味するのである。

他動詞と目的語からなる連語において、目的語がメトニミーにより指示を変えるのではなく、動詞の意味の方が変化するというメカニズムは、次のような表現において見られるものと、類似している。

(39) John heard the piano. (Recanati, p.34)

Recanati (p.35) が述べている通り、この例について、二通りの分析が考えられる。

- (40) 動詞 hear は「音が聞こえる」ことを表し、目的語として「音」を取る。目的語の the piano は、本来はピアノという楽器を意味しているのに、音ではない。そこで、the piano はメトニミーにより「ピアノから発せられる音」を指すと考える。
- (41) 目的語の the piano は、本来通り、ピアノという楽器を指している。その代わり、動詞 hear が、「(目的語の指示対象である) 物体が発する音が聞こえる」という意味に変わっていると考える。

Recanati は、後者の分析を支持する証拠として、次のように言えることを指摘している。

(42) I can both hear and touch the piano. (Recanati, p.35)

この文においては、the piano は、touch の目的語であるから、「ピアノが発する音」を指しているということはあるにない。すると、目的語は「ピアノ」という楽器そのものを指しているのに、hearの方が、「(目的語の指示対象である) 物体が発する音が聞こえる」という意味に変わっていると考えられる。

「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いたり、「試験をする」ことを表すのに「取る」という動詞を用いる場合も、目的語がメトニミーにより指示を変えているのではなく、動詞の意味が変化していると考えべきだろう¹⁸⁾。

(39) においては、ピアノの音が、目的語のような顕在的な項になっていないにもかかわらず、目的語の指示対象であるピアノよりも動詞 hear の表す事象により関わっている。Langacker (1990, pp.189-201) は、これを active zone と称している。「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用いる場合や、「試験をする」ことを表すのに「取る」という動詞を用いる場合も、解答は目的語などの顕在的な項として表現されていないが、やはり、動詞の表す事象に直接関わっており、active zone になっていると考えることができる。また、3.3 で、受験者が起点として標示される場合や、試験者が着点として標示される場合を見たが、これは active zone である解答の移動経路として説明される¹⁹⁾。

5. その他の動詞

これまで、「試験を受ける」ことや「試験をする」ことを表すのに、「与える」という動詞や「取る」という動詞が用いられる場合を見てきたが、それ以外の動詞が用いられる場合でも、同様に説明されるものがある。

5.1. アルゼンチンやウルグアイのスペイン語の *rendir*

第1節の(5)ですで見たとおり、アルゼンチンやウルグアイのスペイン語では、「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞 *dar* が用いられるが、その他に「返す」という動詞 *rendir* も用いられる。

(43) アルゼンチンのスペイン語 (Haensch y Werner, s.v. *rendir*)

una	persona	rinde	un	examen
不定冠詞	人	返す	不定冠詞	試験
人が試験を受ける				

「試験を受ける」ということは、試験というものの自体を誰かに返すことではない。この表現は、「与える」という動詞を用いた表現の場合と同じように、試験において受験者が試験者に解答を返していることと捉えることができることに動機付けられていると考えられる。「返す」と言っても、もらったものや借りていたものを返すように、同じものを返す訳ではない。むしろ相手の質問に対して返答を返すのと同様に、試験者の出した問題に対して解答を返しているのである²⁰⁾。

この場合も、目的語名詞の「試験」がメトニミーにより解答を指しているのではなく、動詞が「試験者に解答を返すことにより試験を受ける」という意味になっていると考えられる²¹⁾。

5.1. フランス語の *présenter*

フランス語では、誤用とはされているが、次のような表現がある²²⁾。

(44) フランス語 (Grevisse, p.101)

présenter	un	examen
見せる	不定冠詞	試験
試験を受ける		

規範的には、次のように言うべきだとされている。

(45) フランス語 (Grevisse, p.102)

se	présenter	à	un	examen
自分を	見せる	～に	不定冠詞	試験
試験を受ける				

ここでは、動詞 *présenter* (見せる) に再帰代名詞 *se* (自分を) が付いており、「試験」を表す名詞句 *un examen* には前置詞 *à* (～に) が付いている。

しかし、再帰代名詞 *se* と前置詞 *à* が単に脱落して (44) の表現ができたというだけでは、なぜそのようなことが起きたのかが説明されない。

他方、動詞 *présenter* には、「提出する」という用法がある。

(46) フランス語 (『ロワイヤル仏和中辞典』, s.v. *présenter*)

présenter	une	thèse	à	l'Université	de	Paris
提出する	不定冠詞	学位論文	～に	定冠詞 - 大学	～の	パリ
パリ大学に学位論文を提出する						

そこで、「試験を受ける」ということが試験者に解答を提出することと捉えられることが、動機付けになっていると考えられる。そうすると、「与える」という動詞や「返す」という動詞の場合と同様に、「提出する」という動詞が、「試験」を表す名詞を目的語として、試験者に解答を提出することにより試験を受けることを表すようになったと考えられる。このように考えれば、再帰代名詞と前置詞の脱落を理由もなく想定する必要がなくなる²³⁾。

6. 英語の場合

英語においては、「試験を受ける」ことを表すのに *to take an examination* と言い、「試験をする」ことを表すのに *to give an examination* と言う。ポルトガル語も、「試験をする」ことを次のように表す。

(47) ポルトガル語 (『現代ポルトガル語辞典』, s.v. *exame*)

dar	um	exame
与える	不定冠詞	試験
試験をする		

これは本稿で見てきた表現とは逆になっている。

「試験を受ける」ことを表すのに「与える」という動詞を用い、「試験をする」ことを表すのに「取る」という動詞を用いることは、「解答」に着目した表現として説明される。逆に、「試験を受ける」ことを表すのに「取る」という動詞を用い、「試験をする」ことを表すのに「与える」という動詞を用いることは、「問題」に着目した表現として説明できる。つまり、試験者が問題を受験者に与えている、あるいは、受験者が試験者から問題を(受け)取っていることに動機付けられていると考えることができる。

試験という事象においては、問題と解答が逆方向に移動しているという双方向性が見られる。これのどちらの側面に着目するかにより、全く正反対の表現が生じうるのである。

7. まとめ

英語では、「試験を受ける」ことを *to take an examination* と言い、「試験をする」ことを *to give an examination* と言う。しかし、多くの言語において、「試験を受ける」ことを表すのに、「与える」という動詞が用いられる。更に、これらの言語の多くにおいて、「試験をする」ことを表すのに、「取る」という動詞が用いられる。これを全て借用によって説明するには無理があり、複数の言語において独立に生じたものと考えべきである。「与える」という動詞や「取る」という動詞が「する」という意味になって、これらの表現ができたとする考え方も多くの問題があり、受け入れられない。

これらの表現は、試験において、受験者は試験者に解答を与えていること、あるいは逆に言うと、試験者は受験者から解答を得ているということに動機付けられている。しかし、文字通りには「試験」を意味する目的語名詞が、問題の表現においてはメトニミーにより「解答」を指しているというわけではない。むしろ動詞の方が、「試験」を意味する名詞を目的語に取ると、意味を変えているのである。「与える」という動詞は、「解答を与えることにより、試験を受ける」ことを表し、「取る」という動詞は、「解答を得ることにより、試験をする」ことを表しているのである。ここにおいて、「解答」は Langacker の言う *active zone* となっている。

注

- 1) 「試験を受ける」ことを表すには、*take* 以外に、*have*, *do*, *sit (for)* 《イギリス英語》, *undergo*, *go in for* が、「試験をする」ことを表すには、*give* 以外に、*hold*, *conduct* が用いられる(『ジーニアス英和辞典』, s.v. *examination*, 『英語基本動詞辞典』, s.v. *examine*, III, 3, 『新編英和活用大辞典』, s.v. *examination*)。
- 2) アメリカ合衆国では英語の影響で「試験を受ける」ことを *tomar un examen* と言う(Azevedo, p.363)。メキシコでも同じ表現が見られるが、やはり、英語の影響であろう(OSD, s.v. *examination*)。
- 3) 『現代ギリシア語辞典』は、この表現について、「試験を実施する」ではない」という注を加えている。違和感を覚える読者への配慮であろう。

- 4) インド英語においては、「試験を受ける」ことを表すのに、to give an examination という表現が見られる (Nihalani, Tongue and Hosali, s.v. *give*)。これは、ヒンディー語などの影響であろう。
- 5) Dabir-Moghaddam は、以下のように述べている。
In Persian the students (literally) give the exam (i.e., they take it), and the teachers (literally) take the exam (i.e., they give it). (p.56, n.6)
- 6) 小松は、imtihon olmoq を「試験を受ける」の意としている。しかし、Waterson は、(37) のような表現も挙げていること、*Uzbeksko-russkij slovar'* (s.v. *imtihon*) も「試験をする」の意だとしていることより、Waterson の記述は信頼してよいと思われる。小松の記述についてはどのように評価すべきか分からない。
- 7) dar を用いると、第 6 節の (47) で見るとおり、逆に、「試験をする」という意味になる。
- 8) sdavat' は不完了体動詞だが、完了体の sdat' を用いると、「試験に合格する」ことを表す。一般的に、不完了体が目的をもった動作を表すのに対して、完了体はその目的の実現を表す場合があり、sdavat' /sdat' はその例である (Wade, pp.298-299, 林田, p.64, pp.66-67)。ただし、受験の完了を表すときは合否にかかわらず完了体を用いるし、また、幾度も合格するときは不完了体を用いる (『岩波ロシア語辞典』, s.v. *sdat'*)。
- 9) zdawać は不完了体動詞であり、完了体の zdać を用いると、「試験に合格する」ことを表す (『白水社ポーランド語辞典』, s.v. *zdawać*, 塚本, p.103)。これは、注 8 のロシア語の場合と同様である。
- 10) 「取る」という動詞が、試験に合格することを表す言語もある。デンマーク語・スウェーデン語・グアドループのクレオール語である。
- (i) デンマーク語 (Axelsen, s.v. *eksamen*)
tage eksamen
取る 試験
試験に合格する
- (ii) スウェーデン語 (*Swedish Dictionary*, s.v. *examen*)
ta examen
取る 試験
試験に合格する
- (iii) グアドループのクレオール語 (Ludwig et al., s.v. *lègzanmen*)
pran lègzanmen
取る 試験
試験に合格する
- 11) アラビア語では、「試験を受ける」ことを qaddama という動詞を用いて表すことができる (Wehr, s.v. *qaddama*)。この動詞には「与える」という意味もあるので、これがペルシア語などの「与える」という動詞を用いた表現の元になっているのかも知れない。
- 12) ドイツ語においては、動詞 *machen* (する) を用いた場合、「試験に合格する」ことを表すこともある (『新現代独和辞典』, s.v. *Examen, Prüfung*)。
- 13) この表現については、注 16 で詳しく説明する。
- 14) 『現代ポルトガル語辞典』の初版 (1996) や『現代日葡辞典』は「試験を受ける」という意味しか記載していないが、『現代ポルトガル語辞典』(改訂版) は「試験をする」という意味も記載している。後者の意味は前者より恐らく使用頻度が低いことが予想される。
- 15) このような記述は他の独和辞典には見られないので、頻度の低い用法だと思われる。
- 16) 事実、ペルシア語では、「する」という動詞を用いても、「試験をする」ことを表すことができるが、その際、受験者は直接目的語として標示される。
- (i) ペルシア語 (アリアンプール・アリアンプール, s.v. *emtehān*)
āmūze-gār ān-hā rā emtehān kard
教師 彼ら を 試験 した
教師が彼らを試験した

ここでは受験者は定の直接目的語を表す後置詞 *rā* によって標示されている。なお、「試験」を表す名

詞 *emtehān* は「する」という動詞 *kardan* と複合動詞をなして、全体で一つの他動詞として直接目的語を取っている。(後置詞 *rā* は間接目的語を表す前置詞 *be* の代わりに用いられることもあるとされているが、これは古典語の場合である。もっとも、(i) において受験者が間接目的語だとしても、ここの論点には影響は無い)。

- 17) 第1節の(6)で見たとおり、アルゼンチンのスペイン語でも、「試験をする」ことを表すのに、「取る」という動詞を用いる。しかし、受験者は起点を表す前置詞 *de* (～から) では表示されない。

(i) アルゼンチンのスペイン語 (Haensch y Werner, s.v. *tomar*)

un profesor le toma un examen a un alumno
不定冠詞 教師 彼に 取る 不定冠詞 試験 ～に 不定冠詞 生徒
教師が生徒に試験をする

(*le* は間接目的語の *a un alumno* を冗語法的に予告する間接目的語代名詞)

しかし、スペイン語の間接目的語代名詞は、起点に対応し、「～から」と訳される場合もある。

(ii) スペイン語 (García-Miguel, p.454)

Mariano le compró un coche a Andrés.
マリアノ 彼に 買った 不定冠詞 自動車 ～に アンドレス
マリアノはアンドレスから自動車を買った。

動詞 *tomar* も起点に対応する間接目的語を取り得るので (García-Miguel, p.454), (i) においてもそうだとすれば、本文のペルシア語やウズベク語の例と同じことになる。

また、ロシア語では、第1節の(24)で見たとおり、「試験をする」ことを表すのに、*prinjat'* (受け取る) を用いる。この動詞は、起点を標示するのに、通常、前置詞 *ot* (～から) が用いられるが、「試験をする」ことを表す場合には、受験者は前置詞 *u* で表示される。

(iii) ロシア語 (『研究社露和辞典』, s.v. *prinjat'*)

prinjat' èkzamen u studentov
受け取る 試験 学生
学生たちに試験を行なう

しかし、この前置詞 *u* にも、取得・入手の源を表す用法がある (Wade, p.479)。

(iv) ロシア語 (Wade, p.479)

Ja kupil dom u djadi.
私は 買った 家 おじ
私は家をおじから買った。

(iii) の *u* も同じ用法だとすれば、アルゼンチンのスペイン語と同様に考えることが可能である。

- 18) 第1節の(21)で見たとおり、ロシア語では、「試験を受ける」ことを表すのに、動詞 *sdavat'* (渡す) が用いられる。この動詞は、口語において、目的語として、「試験」を表す名詞だけでなく、科目名を取ることがある。

(i) ロシア語 (『岩波ロシア語辞典』, s.v. *sdat'*)

Ja segodnja sdaval istoriju.
私は 今日 渡す 歴史
私は今日歴史の試験を受けた

もし、目的語名詞がメトニミーにより指示対象を変えているとすると、科目がメトニミーにより試験を指示し、試験がさらにメトニミーにより解答を指示していることになるが、徒にメトニミーを繰り返している感を否めない。科目がメトニミーにより解答を直接指示していると考えとしても、そのようなメトニミーが可能な程、解答が科目に対して十分に近接性を有しているか疑問である。むしろ、科目名を目的語とする場合には、動詞が「解答を渡すことにより、その科目の試験を受ける」ことを表すように、意味変化していると考えの方が簡明である。同様の例として、フランス語の *présenter* の場合がある (注23参照)。また、アルゼンチンやウルグアイのスペイン語の *rendir* の場合とも比較されたい (注21参照)。

- 19) 前置詞句が、主語や目的語などの顕在的な項ではなく、*active zone* の移動経路を表すことは、以下の表現においても見られる。それぞれ、前置詞句は角括弧内に示した *active zone* の移動経路を表して

いる。

- (i) to speak into the microphone [声]
- (ii) to blow into the microphone [息]
- (iii) to blow one's nose into a handkerchief [鼻腔内の粘液]
- (iv) to empty a bottle into the sink [瓶の内容物]
- (v) to bite into an apple [歯]

20) フランス語で、答案を提出することを表すのに、「返す」という動詞 rendre を使うことと比較されたい。

- (i) フランス語 (*Robert, s.v. copie*)
- | | | |
|---------|-------|-------|
| rendre | sa | copie |
| 返す | 彼(女)の | 答案 |
| 答案を提出する | | |

なお、ここでは、sa (彼(女)の)は、「自分の」の意味で使われている。

21) この動詞には、目的語を伴わない用法もある。

- (i) アルゼンチンのスペイン語 (*Haensch y Werner, s.v. rendir*)
- | | | |
|----------|---------|-------|
| una | persona | rende |
| 不定冠詞 | 人 | 返す |
| 人が試験を受ける | | |

もし、(43)が「試験を受ける」ことを表すことを、「試験」という名詞がメトニミーにより解答を指示しているからと説明すると、目的語を伴わない(i)が「試験を受ける」ことを表すことが説明できない。それに対して、動詞の意味変化による説明ならば、動詞がその意味の中に「試験」を完全に組み込んでいると考えるだけで済む。注18のロシア語の sdavat' の場合と比較されたい。

22) この表現は、フランスよりも、ベルギーの方で使用頻度が高い (*Francard, s.v. présenter*)。

23) 動詞 présenter は、目的語として科目名を取ることがある。

- (i) フランス語 (*Francard, s.v. présenter*)
- | | | | | | |
|---------------------|----------|--------------|-----------|----|-------|
| Je | présente | linguistique | française | en | juin. |
| 私は | 見せる | 言語学 | フランス語の | ～に | 6月 |
| 私は6月にフランス語学の試験を受ける。 | | | | | |

これは、注18で見たロシア語の sdavat' (渡す) の場合と同様であり、目的語名詞のメトニミーによる説明よりも動詞の意味変化による説明の方により適合している用法である。

参考文献

- Azevedo, M. M. (2009) *Introducción a la lingüística española*, 3rd Edition, Upper Saddle River, Prentice Hall.
- Axelsen, J. (1995) *Dansk-Engelsk Ordbog*, 10. udgave, Copenhagen, Gyldendal.
- Dabir-Moghaddam, M. (1997) "Compound Verbs in Persian", *Studies in Linguistic Sciences*, 27(2), pp.25-59.
- Diccionari angles-català català-anglès* (1994) Barcelona, Bibliograf.
- Duden = Duden : das große Wörterbuch der Deutschen Sprache* (1993-1995) Mannheim, Dudenverlag.
- Dupré, P. (1972) *Encyclopédie du bon français dans l'usage contemporain*, Paris, Trévise.
- Francard, M. (2010) *Dictionnaire des belgicisms*, Bruxelles, De Boeck Duculot.
- García-Miguel, J. M. (1999) "Grammatical Relations in Spanish Triactant Clauses", in L. G. de Stadler and C. Eyrych (eds.) *Issues in Cognitive Linguistics*, Berlin, Mouton de Gruyter, pp.447-469.
- Grevisse, M. (1998) *Le français correct*, 5e édition, Paris, Duculot.
- Haensch, G. y R. Werner (2000) *Diccionario del español de Argentina*, Madrid, Editorial Gredos.
- Kühl de Mones, U. (1993) *Nuevo diccionario de uruguayismos*, Santafé de Bogotá, Instituto Caro y Cuervo.
- Langacker, R. W. (1990) *Concept, Image, and Symbol: The Cognitive Basis of Grammar*, Berlin/New York, Mouton de Gruyter.
- Ludwig, R. et al. (1990) *Dictionnaire créole français (guadeloupe)*, Paris, Servedit/Éditions Jator.

- Migliorini, B. (1965) *Vocabolario della lingua italiana*, Torino, Paravia.
- Moufflet, A. (1930) *Contre le massacre de la langue française*, Toulouse, Privat-Didier.
- Nihalani, P., R.K. Tongue and P. Hosali (1989) *Indian and British English: A Handbook of Usage and Pronunciation*, Delhi, Oxford University Press.
- OSD = *The Oxford Spanish Dictionary*, Second edition, revised with supplements (2001) Oxford, Oxford University Press.
- Osselton, N. E. and Hempelman, R. (2003) *The New Routledge Dutch Dictionary*, London and New York, Routledge.
- Recanati, F. (2004) *Literal Meaning*, Cambridge, Cambridge University Press.
- Robert = *Le nouveau petit Robert* (2008) Paris, Dictionnaires Le Robert.
- Swedish Dictionary* (1993) London, Routledge.
- The Oxford Hindi-English Dictionary* (1993) Oxford, Oxford University Press.
- Tiktin, H. (1985-1989) *Rumänisch-deutsches Wörterbuch*, 2., überarbeitete und ergänzte Auflage, Wiesbaden, Otto Harrassowitz.
- Uzbeko-russkij slovar'* (1959) Moskva, Gosudarstvennoe izdatel'stvo inostrannykh i nacional'nykh slovar'ej.
- Vocabolario della lingua italiana* (1986-1994) Roma, Istituto della Enciclopedia Italiana.
- Wade, T. (2000) *A Comprehensive Russian Grammar*, Second Edition, revised and expanded, Oxford, Blackwell.
- Waterson, N. (1980) *Uzbek-English Dictionary*, Oxford, Oxford University Press.
- Wehr, H. (1976) *A Dictionary of Modern Written Arabic*, edited by J Milton Cowan, third edition, New York, Spoken Language Services.
- アリアンプール・A・K, アリアンプール・M・K (1983) 『ベルシア語英語辞典』復刻版, 東京, 穂高書店。
- 伊和中辞典 第2版 (1999) 東京, 小学館。
- 岩波ロシア語辞典 (1992) 東京, 岩波書店。
- 英語基本動詞辞典 (1980) 東京, 研究社。
- 加賀谷寛 (2005) 『ウルドゥー語辞典』, 東京, 大学書林。
- 黒柳恒男 (2002) 『新ベルシア語大辞典』, 東京, 大学書林。
- (2010) 『日本語ベルシア語辞典 改訂増補版』, 東京, 大学書林。
- 研究社露和辞典 (1988) 東京, 研究社。
- 現代ギリシア語辞典 第3版 (2004) 東京, リーベル出版。
- 現代日葡辞典 コンパクト版 (2010) 東京, 小学館。
- 現代ポルトガル語辞典 改訂版 (2005) 東京, 白水社。
- 講談社オランダ語辞典 (1994) 東京, 講談社。
- 小松格 (1980) 『ウズベク語辞典』, 東京, 泰流社。
- 三枝礼子 (1997) 『ネパール語辞典』, 東京, 大学書林。
- ジーニアス英和辞典 第4版 (2006) 東京, 大修館。
- 新現代独和辞典 新装版 (1992) 東京, 三修社。
- 新編英和活用大辞典 (1995) 東京, 研究社。
- 西和中辞典 (1990) 東京, 小学館。
- 塚本桂子 (2008) 『よくわかる現代ポーランド語文法』, 東京, 南雲堂フェニックス。
- 直野敦 (1984) 『ルーマニア語辞典』, 東京, 大学書林。
- 白水社ポーランド語辞典 (1981) 東京, 白水社。
- 橋本勝, エルデネ・プレブジャブ (2001) 『現代日本語モンゴル語辞典』, 横浜, 春風社。
- 林田理恵 (2007) 『ロシア語のアスペクト』, 東京, 南雲堂フェニックス。
- ロワイヤル仏和中辞典 第2版 (2005) 東京, 旺文社。

Why One Says “to Give an Examination” to Mean “to Take an Examination” in Many Languages

Tohru HIRATSUKA

Abstract

In English, one says “The student takes an examination.” and “The teacher gives an examination.” In many languages, however, one says “to *give* an examination” to mean “to *take* an examination”: Italian (*dare un esame*), Argentine and Uruguayan Spanish (*dar un examen*), Modern Greek (*dínō exetáseis*), Persian (*emtehān dādan*), Hindi ({*imtahān / parīkṣā*} *denā*), etc. Moreover, in many of these languages, one says “to *take* an examination” to mean “to *give* an examination”: Argentine Spanish (*tomar un examen*), Persian (*emtehān gereftan*), Hindi ({*imtahān / parīkṣā*} *lenā*), etc.

These expressions are motivated by the fact that, in an examination, the examinee gives answers to the examiner, or to put it the other way around, that the examiner gets answers from the examinee. This does not mean that the object noun, which literally means “examination”, stands by metonymy for “answers” in the expressions in question. It is the verbs which change their meaning when they collocate with the noun meaning “examination”: the verb of giving means “to take it by giving answers to the examiner”; the verb of taking means “to give it by getting answers from the examinee”.

Keywords : examination, verb of giving, verb of taking, metonymy, active zone